

子育て支援と 高齢者施策の融合

神戸市看護大学大学院 博士前期課程
看護組織学領域 看護キャリア開発学
岩下真由美

母親の就労

- ◆就学前→27.1%から35.4%
(+8.3ポイント)
- ◆小学校低学年→42.1%から58.5%
(+16.4ポイント)

児童生活実態調査(2000年神戸市)
次世代育成支援に関する調査(2004年神戸市)

父親の就労

- ◆就学前→97.9%から96.4%
- ◆小学校低学年→98.5%から95.1%
※若干の減少

児童生活実態調査(2000年神戸市)
次世代育成支援に関する調査(2004年神戸市)

兵庫県待機児童数(770名)

- 1位 **神戸市**・・・487名
- 2位 西宮市・・・134名
- 3位 宝塚市・・・58名

2008年4月現在

i子育てネット<http://www.i-kosodate.net/search/>より抜粋

保育所(神戸市)

- ◆赤ちゃんホーム
生後7週目から1歳未満の健康な赤ちゃん
(定員:3名)
- ◆家庭託児所
原則として1歳から3歳未満の健康な子供
(定員:14名)
- ◆病児、病後児保育実施施設
7施設(日・祝・年末年始休み)

神戸市ホームページより抜粋

保育所(神戸市)

- ◆神戸市で働く母親情報によると
生後6カ月から2歳までは、需要が多い割に
定員は**全体の10%**くらいである

保育園全体の定員が100人の場合
→定員**約10人**

この時期に働く場合は、おじいちゃんや
おばあちゃんにあずけるしかない！！

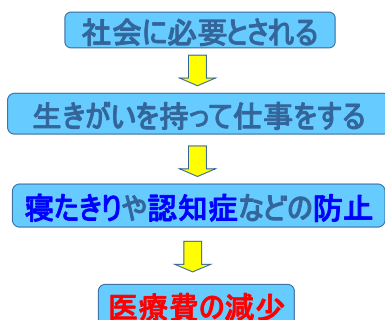
多様化している保育ニーズ・子育て支援ニーズに応えるには？

- ◆保育所の増設
(2歳児までの定員増員)
- ◆延長保育、休日保育、夜間保育、病児保育の推進

高齢者福祉施策

- ◆シルバー人材センター
- ◆人草刈り、清掃、植木剪定、あて名書き、経理など
- ◆高齢者福祉施策は現在の60歳以上の方々のニーズに合っているのか？

60歳以上の方々



看護師の場合

- ◆育児休業2年→きっちり取る人は少ない
(ブランクが嫌である)
- ◆保育所の空きに合わせて産後復帰する
- ◆夜勤ができないと正規職員としての雇用が優先されない病院組織の場合
→パートタイマーは雇用が不安定
→研修等の機会を得ることが難しい

※子育てのライフステージにある看護師のキャリア継続に関連する要因(2009年度岩下修士論文)

◆【看護に対する思い入れ】があり仕事を続けていた。

◆自分自身の【看護師としての成長の気づき】を実感していた。

- ・相手の個性を尊重できるようになった
- ・待てるようになった
- ・相手に合わせた援助ができるようになった
- ・患者との関わりがうまくいくようになった
- ・患者をとりまく家族の思いがわかるようになった

※子育てのライフステージにある看護師のキャリア継続に関連する要因(2008年度岩下修士論文)

提言1

保育所における0歳から2歳児までの定員を増やし、専門家の指導のもと60歳以上の方々に育児経験を活かして働いていただく(労働に見合った賃金を支払う)。

提言2

学童保育所の利用を小学校6年生まで(現在は3年生まで)とし、専門家の指導のもと、60歳以上の方々に育児経験を活かして働いていただく(労働に見合った賃金を支払う)。

提言3

60歳以上で以前に教員として働いていた方々に、学童保育所において専門分野の授業をしていただく(労働に見合った賃金を支払う)。

提言4

保育施設の開園時間を18時以降及び日曜祝日とし、専門家の指導のもと、60歳以上の方々に保育施設で働いていただく(時間外労働や休日労働に見合った賃金を支払う)。

提言5

看護師や医師など時間内に仕事が終わらない人の子どもに対して、保育所の迎えやその後の食事の世話を行なっていただく(労働に見合った賃金を支払う)。

提言1～5は可能な限り地域単位(区または校区単位)で行う



「子育て支援と高齢者施策の融合」を機にもう一度昔に戻って、世代を超えた街づくりをすることが大切！！

ご静聴ありがとうございました

